

償は求めない事になっている。

現在加入者数 四三二名

申請回数二件、しかし採血は不要。

今後の課題と問題点は次の通りである。

課題は、現在、登録者のある寺院は二十カ寺で四十八パーセント、また、寺院によつては二、三名の登録者しかないといった現状であり、将来、全寺院より多くの登録者を獲得しなければならない。

問題点は、この運用は、新鮮血液によつて助かる手術（手術の成・不成功でなく、医師の事前の判断）の場合に限られたものである。申請される人が十分これを理解されていないと、申請はしたが断わられたと感情のもつれとなり、この活動が布教面にマイナスをもたらす恐れがある。

以上の課題と問題点も含まれているが、将来、努力によつてこの輪を広げたいと思つている。

(三)老人ホーム対象物故者慰霊法要

法要布教・言説布教を目的として毎年一回、老人ホームに於て物故者慰霊法要を奉仕の形をとり実施。本年は

姫路市白鳥園に於て三月二十日に実施した。入園者並に勤務者に感謝され、喜んでいただいている。

(四)声の本（テープによる布教）

寺に行きたくても行けぬ、法話が聞きたくても聴聞出来ない人々、即ち施設や老人ホーム等を対象に、簡単でわかり易い法話・祖伝・仏伝等を作成、配布する。本年は、十巻作成し、老人ホーム十カ所に寄進した。

## 如何にしてお題目総弘通に 取り組んでいるか

——百万遍唱題修行について——

菊池泰瑞

(大分・法華寺住職)

①その発端と趣旨

「お題目の輪をひろげよう」をスローガンに、如何に信徒に、さらに未信徒に唱えさせるか。「無信有解・無信無解」の大眾に対する唱題行は如何に有れば良いか、ただ摸索の数年が過ぎた。

心からの発心でなく、自利・利他のみの題目はすぐに

消えてしまう。唱題は日々の積み重ねでなければならぬ。

昭和五十五年一月一日を期して、宗祖七百遠忌前年から、報恩感謝の唱題行として始まった。当初、朝勤夕勤に参詣する八人の信徒で組織された。とりあえず向う三カ年計画で、全員で百万遍唱題行に取り組み、同時に唱題カードと修了証を作成した。カードは、昭和四十四年以前の中央教研会議で得た資料を、そっくりそのままに印刷したもの。その後、カードは三回改訂しつつ作成、修了証は二度印刷した。

## ②経過

朝勤に二百遍、夜勤に三百遍の唱題を基本に、修了者第一号は（一万遍唱題修了者）一月十七日に生れた。つぎつぎと生れる修了者に、当初の目標を変える必要にせまられた。

昭和五十七年十二月（当初の目標終了時点）には、参加者三十人となり、千五百万遍の唱題カードが積った。まさに目標の十五倍のお題目があげられたことになる。例えば、一日五百遍の題目は、一年で十八万二千五百遍、

六年で百万遍成就することとなる。

当然、三カ年経過するまでに、一人百万遍の唱題行を目標にと切り替えられた。

## ③現状

百万遍唱題行は、ある種の競争心があったかも知れぬが、現在、三百万遍以上が六人、二百万遍以上が八人、百万遍以上は二十三人、唱題修行会員数一五八人、総数五千万遍に達した（昭和六十年五月二十八日現在）。

数取りせんがために、唱題は早くなりがち。そのプレキに必ず太鼓をたたく。一分間二十遍、五分百遍のペースを守らせている。

## ④唱題カードと修了証

カードは、一万遍修了すると、一枚のカードを塗りつぶし提出する事となるが、当初は千遍終了毎に検印をした。第二回作成にあたっては、升目を変えて見た。現在は一枚のカードに一つの検印と省略した。唱題せずに赤鉛筆で塗りつぶすような人は出る訳がなかった。修了証は、ほぼオリジナルながら当初より変更していない。

## ⑤記念品授与

御遠忌記念として始めた唱題修行だったので、五十七

年までは、十万遍修了者には、宗祖御涅槃図の色紙を授与した。五十八年以降は珠数一連を、五十万遍毎にお経本(朝夕のおつとめ)、二十万遍、三十万遍というように十万遍毎に散華(宗祖御一代記)を各一枚授与している。

なかでも百万遍修了者には、逆修法号を授与した。授与した会員は二十一人。すでに先代から授与された者もあるため、法号は日号の九字戒名、信士・信女、しかし高齢で法功を多とする者には、居士・大姉号もある。

#### ⑥ 推進と弘通

毎月八の日(八日・十八日・二十八日)の午後二時から午後三時までの鬼子母尊神講の唱題修行中、各人毎に「○万遍唱題修行修了者○○○○如説修行功德甚多、病即消滅不老不死」と宗祖に報告する。参詣者全員の回向祈願のあと、唱題の功德の法話中に、各人へ修了証を手渡す。祈願は万遍数の多い人から、手渡す時は一万遍の人から渡す。一人づつ、コメントをつけ、全員の拍手をもらう。毎年一月六日の寒の入りから二月四日の節分までの寒中修行(毎日約二時間)は、参加者は一回千遍とする。留

守部隊は千遍数取りをする。

法事・祈禱等でも必ず数取りをして、カードに加える。唱題の機会ある毎に全て運用する。

参詣者には、必ずカードを渡す(六十年五月以降)。

#### ⑦ 教化

毎夜午後七時からの夜勤後七分説法(昭和五十五年以降)。主として教義、すでに法華経二十八品、御遺文等が終り、現在、仏教の発祥からやり、自己の習学となると思いつづける。

夜勤の唱題行は、当初一日三百遍が、五十八年から、信徒が自発的に夜勤のあと二百遍の唱題修行をする。

朝勤は毎朝六時から七時まで、『妙行日課』を拝読し、御遺文に親しむ。参詣者十人程度。夜勤は、七百遠忌出版の『一日一訓』を利用する。出版前は「如説修行抄」「立正安国論」等、ポピュラーな御遺文の暗誦をした。

朝勤と夜勤(午後七時〜八時)の対象者は異なる。

八の日の説法は、当日のニュースを素材として、未信徒向けの一般的法話からお題目に帰結する。

「日蓮宗新聞」を、昭和四十八年以降百部無料配付、

一人不用になれば、そのまま他人の住所と名義に変更し継続する。檀家は五十戸、未信徒への教化に役立てる。

「あなたを拝みます」、来寺帰寺の折、顔を合わせた時は、必ず合掌する。合掌で返礼する習慣がつく。

### ⑧ 先達の活用

五回終了者一人、三回終了者一人、二回終了者二人、今年入行予定者一人。

五回修了者（大教補）は、五十七年にお堂を開堂、信徒を確保し、唱題修行に励む。

三、二回修了者は、住職留守中、自坊の唱題行の文字通り先達となる。

数取り器、一個約千円を各自持つ、一家に四個も五個もある家もある。

今年入行予定者一人、朝夕勤に必ず参加、未信徒へ教化を進める。

### ⑨ 効果

全員参詣者、唱題修行会員は太鼓がたたける様になる、大声で唱題が出来る。

感謝の念が次第に大きく涵養されつつある。

行事への参加が増えつつある。

一人の唱題が、高齢者から幼児まで修行するようになる。

無辺の題目の功德が、人を変えている。

体調も良く体力に自信が持てるようになる。その他、無辺の功德は当然。

### ⑩ 目標

現在、約五千万遍一万遍が一部として五千部読誦に匹敵と伝える。四年五カ月で達成。

今後一億遍を当面の目標で、三年後に達成。五年後には百万遍以上百人へ、唱題修行会員を千人へと、五年間で会員物故者は二人のみ。百万遍唱題宝塔の建立。

### ⑪ 資金づくり

スタート時は住職個人の負担。印刷費と記念品代。三カ月位経過後、自然発生的にカード一枚に対し百円奉納が定着。

そのまま貯金、現在約四十万円（印刷費に支出）。特別に唱題基金制もなければ、唱題行者の篤志もなし。

### ⑫ 計画

唱題貯金通帳の発行、積み立てるだけでなく、当然引き出しも可。

例えば、入学時に十万遍、その後各項目で支出を決める。一年間交通無事故、就職成就、結婚、安産、当病平癒、子育て成就など。

逆修法号には百万遍差し引く、臨終時にいくら貯金額があるか、子孫にいくらの貯金を残せたか等、具体的に功德を数字で表す。

さらに一万遍と現金をタイプアップさせる。金額で知らせる（要研究）。

市民総題目の実現。

### ⑬問題点

いかに唱題の質を向上させるか。

空題目との見究め。

御利益追求の題目の熱烈さを報恩の題目へ如何に転換させるか。

尺寸の因行果徳の二法の功德として、自然に得るお題目の功德への徹底。

新興宗教と似て非なる題目の周知。

水の如く、心すなおな無心の御題目へ向わしめる具体策等。

### ⑭結論

お題目総弘通は、結局、教師が一人づつ、或は先達が一人づつ、能化が一人づつ教化する事。その後の教化こそ、総弘通へ向わしめる。初めは何が何でも唱えさせる事の大事より外にない。

## 私のお題目弘通の体験

石井 錬 昭

（神奈川・妙伝寺住職）

「私のお題目弘通の体験」という話をせよとのこと、私自身大変お題目に縁のうすい人間ですから。と申しますのは、私は皆のような根っからの出家ではありません。それは、中学一年生当時から十七、八歳位までお経とお題目は唱えましたが、寺の小僧ですから、形だけの修行はさせられました。

どうも僧侶が何となくいやで、それも葬式と法事がい